

日本人学習者と韓国出版の初級教材

—授業事例と学習者教材満足度を中心に—

*Japanese Students and Beginner's Textbooks Published in Korea :
A Case Study on Learner Satisfaction*

金世朗*

1 はじめに

筆者は現在新潟大学と新潟国際情報大学の2校で、韓国慶熙大学で出版された初級教材を用いている。この教材はコミュニケーション能力の向上に重点を置き、課題活動が豊富であり、興味深い主題で構成されているので、学習者が楽しく効果的に学習できる。ただ、韓国国内での使用を目的としており、多様な言語圏からの学習者向けに製作されたため、日本の学習者に使用するにはある程度の問題がある。また、韓国で韓国語を学習することと日本で韓国語を学習することとは大きな違いがある。学習環境の違いも挙げられるが、学習者の学習動機や意欲が最も大きな違いといえる。日本の大学における韓国語学習者の大半は主専攻ではなく教養語学として履修しており、多くが単位取得を目的としている¹。また、高い関心や意欲を持って学習するとしても、実生活では韓国語に接することも使用することもあまりない。そのため、韓国語を学習して何かができるようになるという達成感や満足感を味わうことが難しく、学習意欲の低下を生むことにつながりやすい。こういうことから、筆者は韓国出版の教材を使用するに当たって、学習者の学習意欲を高め、できるという達成感が得られるように授業法を工夫するようになったのである。

本稿では、まず韓国出版の教材を日本の学習者に用いる時に、どのような問題点があり、使用時にはどのような点に注意すればいいかを明らかにする。その後、それを踏まえて韓国で出版された慶熙大学の初級教材を学習者や学習環境を考慮してどのように授業で活用しているのか授業の実例を紹介する。また、この教材で学習している学習者が教材についてどのように思っているか、アンケート調査した結果を分析し、日本人学習者に韓国出版の教材を使用する時の留意点及び日本人学習者の望む教材像について考える機会をもうけたい。

2 韓国出版の教材の特徴と教材使用時の注意点

金・丁(2006)では、日本の大学で韓国語を教えている教師31名を対象に、出版国別教材のイメージについて調べた。《表1》によると、韓国出版の教材は、教材に使用されている表現が韓国語として自然でコミュニケーション中心の内容構成であるうえに、レベルごとに連携して開発されているなど、かなりよいイメージが持たれていることがわかる。

しかし、日本で使用するには二つの大きな問題点があるように見える。

一つは、学習する分量が多く現在の日本の大学授業では使いにくいということと、もう一つは日本人学習者の特性を考慮していないということである。

¹ 朴修禧(2007:18)は、新潟の大学で韓国語を受講している学生98名を対象に学習動機について調べているが、学習者の54%が単位取得のためだと回答している。

《表1》 出版国別韓国語教材のイメージ（金・丁（2006））

| 韓国の教科書 | 日本の教科書 |
|---|-------------------------------|
| ・韓国語の表現が自然 | ・韓国語の表現が不自然 |
| ・初・中・上のレベル別に連携して製作 ・学習する分量が多く、難易度が高い | ・初級の教材は多いが、中級以上の教材が無い |
| ・視覚的に魅力的（カラーで絵や写真が豊富） | ・視覚的に興味が持てない |
| ・統合教材が多い | ・意見無し |
| ・日本人学習者の母語を考慮していない構成 ・コミュニケーション中心 | ・日本人学習者の母語を十分に考慮した構成 ・文法中心 |
| ・組織的・専門的で外国語教育学の成果を反映 | ・個人的で非専門的な感じ |

2.1 韓国出版の教材は分量が多い

日本の大学は週1コマから2コマの授業形態（1コマ90分授業）が一般的である²のに対し、韓国では週5回、1日4時間（1時間50分授業）の授業形態が多く³、教材もそれに合わせて製作している。授業時間数を考えると当然日本の大学での使用は無理である。では、新潟大学と新潟国際情報大学では、なぜ韓国で出版された初級教材を使用しているのだろうか。それは、韓国語学習を行う1年目だけでも、新潟大学⁴が週3コマないし週4コマを2学期の間、国際情報大学⁵が週3コマを2学期の間学習するので、他大学より授業時間数が多いからである。学年があがると授業時間数は減少するが、2～3年間続けることになる。日本出版の教材は基本的に週2コマを基準に製作しており、《表1》でも示している通り、次のレベルの教材を製作していないため、学習時間が少しでも多いと使用に適した教材を見つけることは困難である。もちろん、韓国出版の教材を使用するのは分量だけでなく、内容面でもよいと判断したためである。

2.2 韓国出版の教材の内容構成面における問題点

ところが、もう一つの韓国出版の教材の特徴、日本人学習者の特性を考慮していない教材内容に関しては、筆者も問題を感じている。菅野裕臣（1991）や野間秀樹（1996）をはじめとする多くの研究者は、韓国語の教材は日本人学習者の母語を考慮した内容であるべきだと主張している。韓国語と日本語は類似点が多く、それを活かせばより効率的な言語教育ができるということである。

任栄哲（2004：5）は、日韓両言語は、7～8割前後の膨大な量の漢語を共用していると言う。現に初級レベルの授業で漢字語中心に教えたら、以前の3倍以上の単語を暗記させることができたという報告もある（李奉賢（1995））。これほど、韓国語教育に漢字語が重要であるにもかかわらず、汎用教材として製作された韓国出版の教材はその点に関してはあまり配慮していない⁶。文法教育においては、

² 国際文化フォーラム（2005：54）によると、四年制大学の場合、週1コマ（74.5%）と週2コマ（22.7%）が一般的であると言う。

³ 慶熙大学の国際教育院の韓国語授業も週5回、1日4時間である。韓国では1学期に50分の授業を200回（10週）行うのが一般的である。日本より4倍から7倍授業時間が多いことになる。

⁴ 新潟大学の韓国語授業は共通基礎科目の一つで、1年生を対象にした朝鮮語ベーシック（3単位）、朝鮮語スタンダード（6単位）、朝鮮語インテンシブ（8単位）がある。学部別に必要な単位によって授業を選択する。2年生以上は選択科目となり、朝鮮語コミュニケーション（2単位、週1コマ）を受講できる。慶熙大学の教材は初級Ⅰと初級Ⅱを約4学期で終える。

⁵ 新潟国際情報大学の韓国語授業は、選択必須科目として韓国語1/2（3単位、週3コマ）、韓国語3/4/5（2単位、週2コマ）があり、選択科目として韓国語6/7（1単位、週1コマ）がある。慶熙大学の教材は初級Ⅰと初級Ⅱを約5学期で終える。

その使い方や提示法において問題がある。指示詞 (이/그/저: コ・ソ・ア) や助詞 (-은/는, -이/가: -ハと-ガ等)の問題が代表的なものとして挙げられるが、これらは単純な対応関係を持つものもあれば、意味機能面で微妙に異なるものもある。韓国語と日本語が似ているからこそ起きる問題であり、学習者の誤用の原因ともなるので、提示法や説明の仕方に充分配慮すべき問題である。

その他に、これは学習者の母語の問題ではないが、韓国出版の教材では学習者に負担を与えたくない意図からか、発音教育をあまり丁寧に行っていない傾向がある。長谷川・李 (2002: 259-260) は、初級レベルにおいて発音変化についての適切な説明がなければ学習者に不安と混乱を招く深刻な問題となると指摘している。普段の生活で韓国語に触れる機会のない学習者に何の説明もなく授業で教師の発音を聞くだけで習得を強要するのは無理なことである。日本で学習している学習者には、適切な発音教育が必要だと考えられる。

以上が、日本の学習者に韓国出版の教材を使用する時の代表的な問題点である。中でも特に学習者の特性を考慮した内容構成面においての問題点、すなわち、漢字語教育や文法の指導法の問題、また発音変化に関しての問題は、日本出版の教材は当然十分に気を使っている部分である。韓国出版の教材を用いる授業では、このすべてを教師が補わなければならないのである。

3 『韓国語初級Ⅰ』を利用した授業事例

ここでは、上で述べた点を考慮し、慶熙大学の『韓国語初級Ⅰ』をどのように工夫して授業で活用しているのかを紹介する。本稿で紹介する単元は第7課で、これは学習者教材満足度調査を行う時期に学習したものである。

3.1 授業実例

『韓国語初級Ⅰ』⁶⁾は、一つの課が、聞く(本文)、話す(文法および練習)、読む、書くの順に学習が進められるように構成されており、本文を教材に載せずに内容を絵で表した聞き取りの形式をとっている。また、各課の内容がストーリー性を持ち、連携している(特に本文の内容)点が特徴といえる。

〈第7課の構成〉

| 単元名 | 主題 | 機能 | 文法 | 課題活動 | 発音 | 韓国文化 ゲーム/語彙練習 |
|-------------|----|--------------------|--------------------------------------|-------------|----|------------------|
| お誕生日、おめでとう! | 訪問 | * 否定表現 * 非格式体表現 | * -이/가 아닙니다 * -아요/어요 * -이에요/예요 | * 誕生日カードの作成 | | * 誕生日の歌 |

〈授業の展開〉・日本人学習者の特性を考慮した指導

- ・クラスの明るい雰囲気作りのためのグループ活動の活性化
- ・コミュニケーション能力向上に役立つさまざまな活動の導入

⁶⁾ 野間秀樹 (2003: 93) は、韓国で製作された教材では漢字や漢字音についての配慮が全くされていないと指摘し、日本語話者に対する教育の観点から大変遺憾なことであると述べている。

⁷⁾ 一つの課は、90分の授業2回~2回半で終える。

| 段 階 | 学 習 内 容 | 留 意 点 |
|-----------------------|---|---|
| 1. 新出単語 | <p>1. 単語の意味と発音を紹介する。漢字語は日本語との比較をしながら説明し、韓国の文化と関係のある語彙は文化の紹介も一緒にする。</p> <p>例) 韓国語では「生日(생일センイル)」というが、日本語では「誕生日」という。また、韓国では誕生日にわかめスープを食べる習慣がある。</p> <p>2. 単語テストはゲーム形式で行う。グループ別に1名ずつ教室の前に出て、教師が言う日本語の単語を韓国語で速く正確に書くグループが勝つ。勝負がついても必ず全員最後まで書くように注意する。</p> | <p>*教科書には、漢字語や語彙と関係のある韓国文化についての説明がないので特別な配慮が必要。</p> <p>*単語テストのために、前の時間に新しく導入する課の新出単語の発音や意味の説明をし、次の時間に暗記してくるように指示する。</p> |
| 2. 聞いてみよう (本文) | <p>本文の絵を見ながら4回ほど聞く。隣の人と聞いた内容について話した後、再び2回ほど聞いて確認する。その後、教師が学生2名に聞いた大体的内容について質問して確認する。</p> <p>ここで本課で学習する内容と文法などを紹介する。</p> | <p>*学習者は第7課の内容を学習しなくても、新出単語を覚えているため、教材の絵を手がかりに大体の意味が予想できる。</p> |
| 3. 話してみよう (文法及び練習) | <p>・非格式体表現「-아요/어요(用言+-です/ます)」の指導例</p> <p>1. -아요/어요がどんな意味機能を持つ文法項目なのかを説明し、動機付けをする。-아요/어요を活用形式別に例を提示し、学習者に活用規則を考えさせる。隣の人と自分が考えた規則について話し合った後、学生の考えたことを聞く。教師がまとめて説明し、今後の韓国語文法学習に非常に重要であることを強調する。</p> <p>2. 오다(オ+아요→와요), 비싸다(비싸+아요→비싸요)のように語幹末が母音で終わる語に関しては、基本的な規則が理解できてから、説明を加える。</p> <p>3. 教科書の-아요/어요の練習問題にある語彙の意味や発音を説明し、意味を考えながら問題を解かせる。答え合わせをした後、-아요/어요の接続によって生ずる発音変化「連音化、hの弱化、濃音化、激音化」を説明し、発音練習をしてまとめる。</p> <p>4. 次の時間に‘ハエたたきゲーム’で-아요/어요の作り方の復習をする。グループ対決で行う。提示された単語カードを見て‘아(요)’・‘어(요)’のどれに接続するかを判断してハエたたきでたたいた後、正確に非格式体表現を言った人が勝つ。 ※添付資料1</p> | <p>*1の段階で提示する例はなるべく学習者が習った語彙を用いるように注意し、最初は語幹末が子音で終わるもののみを提示する。教科書には1と2の段階のものが一緒に紹介されている。</p> <p>*教科書の文法学習に提示している語彙は新出単語にないものが多く、学習者に負担が大きい。また、-아요/어요が接続することによって発音変化が起るので、注意が必要。</p> |
| 4. 絵を見て話してみよう(練習) | <p>まず、ペアで教材にある質問文の意味を確認した後、絵を見て話すように指示する。十分な時間を与えた後、学生に質問して確認する。</p> | <p>*絵が理解しにくいという学習者がいるので、学習者の様子を見てヒントを与えるようにする。</p> |
| 5. 読んでみよう1 家族紹介 | <p>ペアで読んで意味を確認する。教師と一緒に読みながら再び意味を確認した後、教材の1)と2)の問題に答えてもらう。さらに、ペアで問題3)の「みなさんの家族を紹介してください」を練習する時間をあげた後、4名ほど指名して家族の紹介をしてもらう。</p> | <p>*家族の紹介は本当の家族を紹介してもいいが、想像して仮想の家族を紹介してもいいと指示する。</p> |

| 段 階 | 学 習 内 容 | 留 意 点 |
|-----------------------|---|--|
| 6. 読んでみよう 2 誕生日カード | 誕生日カードの例を紹介する。カードに書かれている言葉の意味と [사랑하네 ~ (愛する~)], [~만큼 (~より)], [~가 (~が)] の使用法やカードの書き方を説明する。 | * 本来は教材に書き込むだけの練習だが、授業では本当に人に送るものとして、心をこめて作ってのように指示し、教師が確認した後は、相手に渡すようにする。 |
| 7. 書いてみよう | 宿題として友達や先生等、送りたい人に送る誕生日カードを実際作ってこようように指示する。 ※添付資料 2 | |
| 8. 歌ってみよう | 誕生日の歌を教師が歌う。歌詞が異なるだけで、歌自体は日本とかわらないことを言った後、歌詞の意味と発音を説明する。学生に今日 (今週, 今月) 誕生日の人がいるかを聞いて、みんなでその人に誕生日の歌を歌ってあげる。“생일 축하합니다 (誕生日おめでとございます)” と言って祝う。 | * なるべく誕生日の人をみつけ、その人の誕生日を心から祝う気持ちで歌うことが大事。 |
| 9. 本文 (まとめ) | 1. 本文の絵を見てどんな会話が行われているかペアでストーリーを考え、ロールプレイを作る。みんなの前で発表する。準備時間は約 10 分~15 分。 2. 発表が終わると本文の CD を聞いて書き取る。4~6 回ほど聞かせる。書き取ったものをペアで確認した後、教師が再確認する。第 7 課で学習した文法などを復習し、まとめる。 | * なるべく学習した文法や表現を使用するように注意し、面白いストーリーで構成するように指示する。 * 自分で作ったロールプレイの内容と比較しながら聞くように指示する。 |

3.2 授業の展開における留意点

3.2.1 教科書の内容構成面における工夫：第 7 課の例

『韓国語初級 I』を用いて授業を進める際には、教科書の内容構成面において以下のことに気を使っている。

① 語彙指導について

생일 (生日: 誕生日), 동생 (同生: 下の兄弟・妹・弟), 포도 (葡萄), 의사 (医者), 소개 (紹介), 행복 (幸福), 축하 (祝賀) などの漢字語は、意味や音が日本語と似ているものや、微妙にずれているものなどを対照比較しながら説明し、語彙と関連して韓国文化の紹介もする。発音変化が起こる語彙に関しては、鼻音化、激音化、有声音化などについてさらに説明し、発音練習を行う。

② 文法の導入について

第 7 課から本格的に韓国語の用言の活用法を学ぶことになる。文法の説明を控え、シンプルに提示することで学習者に負担を与えないようにするのはいいが、今後の韓国語学習に大きい影響を与える連結語尾「-아요/어요」の接続法に関しては、慎重に指導をする必要があると考える。練習問題に提示されている練習用の語彙が本課の新出語彙でも紹介されていないうえに、今まで学習したことのないものが多く、活用法則を覚えることと同時に新しい語彙も覚えなないといけないことが二重の負担となっている。また、語幹が子音で終わる場合 (웃다 (笑う)→웃+어요→웃어요 (笑います)) と違って、語幹が母音で終わる場合 (보다 (見る))→보+아요→봐요 (見ます) は縮約形になるため、別に指導する必要があるのに、この教材では一緒に提示されている。授業ではなるべく知っている語彙を用いて、基本的な活用法則を紹介し、慣れてきたところで新しい語彙や異なる活用形式を紹介するように注意

している。

③ 発音教育について

新出語彙の紹介の時も文字と発音が異なる場合は、特に指導が必要である。文法学習においても同様で、例えば、非格式表現の「-아요/어요 (用言+-ます/です)」と「-이에요/예요 (名詞+-です)」を接続すると「連音化、hの弱化、濃音化、激音化」などさまざまな発音変化が起こる。学習者は文字と発音が異なることに対して心理的に大きな負担を感じるので、文法の指導の後には、なるべく発音変化まで指導するようにしている。

④ その他

第7課の「読んでみよう1 (家族紹介)」の練習で、「みなさんの家族を紹介してください」という練習問題がある。日本人学習者には個人的なことをあまり話したがる学習者もいるので、プライベートな質問が練習問題になっている時は、仮想の家族を紹介してもいいなどの指示を与え、まえて配慮するようにしている。また、教科書にある絵や写真についての配慮も欠かしてはいけない。教材に絵や写真が豊富であっても学習者が理解しにくいものだったら練習に使えないためである。中には、日本のものや日本人の感覚とは異なっているものがあるため、その点に関しては特に注意が必要である。

3.2.2 学習意欲を高め、達成感を味わうことのできる授業のための工夫

「はじめに」のところで、日本の大学で韓国語を受講している学生の多くが単位取得を目的としており、それほど学習意欲が高くないことについて触れた。韓国出版の教材を使用しているクラスの学習期間が他大学より長いとはいえ、韓国で高い学習意欲をもって学習する人のために製作されたものを、学習意欲の希薄な学習者に用いることは困難な点が多い。ここでは、筆者が『韓国語初級I』を用いながら、学習者の学習意欲を高め、少しでも達成感が味わえるように授業で特に留意していることを簡単に紹介する。

まず、学習者同士が親しみを持って明るい雰囲気ですることができるように、グループ活動を活性化させた。日本人学習者を指導しながら、学習者間の人間関係が学習に大きく影響を与え、クラスの雰囲気が重要であることがわかった。ペアワークやタスク活動をするに当たって学習者同士が親密でない、活動はうまく行われなかった。グループを作り、1学期あるいは1年間一緒に活動することによって、自然と学習者間の信頼や友情が芽生え、クラスの雰囲気もよくなり、教材にあるペアワークをはじめとするさまざまな教室活動も活発に行われるようになったのである。さらに、緊張し硬くなりがちな単語テストや文法学習もゲーム形式⁸を取り入れて、積極的に授業に参加してもらうようにした⁹。

そして、日本では学習した内容を実生活では使用する機会がないことを考慮し、例えば、教科書に誕生日カード(日記、葉書等)の紹介があった場合は、実際にカードを作って友達に送るようにしたり、誕生日の歌の紹介があれば、誕生日の人をみつけたしその人のために歌うようにした。また、単元のまとめの作業として、本文の内容の意味を単純に確認して終わるのではなく、学習者が教材にある絵を見てどういう状況なのかを想像し、今まで学習した知識を総動員して自分の言葉でロールプレ

⁸ 韓国語学習に関するゲームは、外山節子のホームページ <http://etspace.jp/> からアイデアを得ている。ここでは、外山節子考案の多様な韓国語学習教材(ゲーム)を無料でダウンロードできる。

⁹ ゲーム形式はグループ対抗が多い。一般的に、競争をさせることは動機づけの面で否定的に考えられている。しかし、上淵寿(2007:175)は競争などの活動を通して結果的に能力を伸ばせることも事実であると指摘している。実際、いつもは授業に興味を見せない学生に限ってこの方法は効果的で、正解した時や勝った時に強い達成感や満足感を感じ、次第に韓国語学習に意欲的になっていく様子が見受けられる。

イを作ってみんなの前で発表するようにした。第7課の主題は「訪問」であるが、このようなロールプレイの発表を通して、他人の家を訪問したり尋ねてきた友達を家族に紹介したりするコミュニケーション活動を自然な形で体験できるのである。

このような授業法を学習者はどう思うか直接聞くような調査はしていないが、新潟大学では学期が終わる頃にすべての授業において授業アンケートを行う。選択式と記述式があり、記述式記入用紙には学習者がその授業に関して思うことを自由に書くことができる。記述式記入用紙¹⁰には、授業の最もよかった点として“単語テストをグループ対抗形式でできて、楽しく勉強できた”，“授業に楽しく臨めるように教材とテストの仕方，課題未提出時の罰則ゲーム等が工夫されていた点”，“グループ活動が多くて楽しかった。全然眠りなかった。”と指摘しており、このような授業形式がよくなかったという否定的な意見はあまり見られなかった。

以上で、『韓国語初級Ⅰ』をどのような点に注意して、授業で活用しているのかについて紹介した。韓国出版の教材を用いる時には、教師が特別に配慮しないといけない部分が多に多い。しかし、教科書の内容構成面において、さまざまな活動や方法で楽しく学習できるようにアイデアを提供してくれている点は長所と言える。

4 『韓国語初級Ⅰ』に関する学習者満足度

『韓国語初級Ⅰ』で学習している学習者に現在使用中の教材をどう思うか聞いてみた。ここでは、その結果をまとめ、教材に対する満足度がどれくらいか、どのような点に満足し、どんな点に不満(困難)を感じているのかを紹介したいと思う。

4.1 調査方法

調査は『韓国語初級Ⅰ』を使用する新潟大学と新潟国際情報大学の学生110名《表2》を対象に1学期の授業が始まった約10週目に該当する2007年6月中旬から6月末にかけて実施した。現在使用している教材についてどのくらい満足しているのかを「とても満足」、「満足」、「少し不満」、「不満」の中から選択させ、その理由として学習者が考えることを自由に記入してもらった《資料1》。

《表2》 調査対象者数と韓国語学習時間（1回90分授業）

| 学 校 | 新潟大学 | 新潟国際情報大学 |
|-------------|----------------------------------|----------|
| 学習時間：調査対象者数 | 約30回：52名 約40回：20名 約55回：13名 | 約72回：25名 |
| 合計：110名 | 85名 | 25名 |

¹⁰ 新潟大学の2007年度「朝鮮語インテンシブⅠ」（1年生）の1学期の授業アンケート結果であり、2007年の7月末に調査が行われた。これは人文学部の1年生を対象とした教養必須科目の一つである。学生数は22名で週4コマを2学期の間学習する。

《資料1》 満足度を尋ねる設問の例

現在、使用中の教材についての満足度はどうですか。

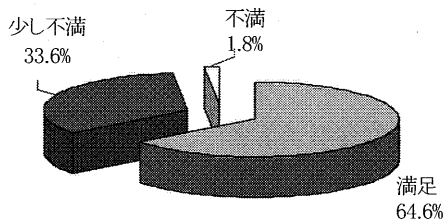
①とても満足 ②満足 ③少し不満 ④不満

……その理由は何ですか。

4.2 調査結果

4.2.1 教材に対する満足度

《グラフ1》『韓国語初級Ⅰ』についての満足度



《グラフ1》で見るとおり、「満足」が64.6% (71名)、「少し不満」が33.6% (37名)、「不満」が1.8% (2名)¹¹だった。2005年も教材に関する満足度調査を行ったが、使用中の教材(10種)に満足する学習者が56%¹²だったことを考えると『韓国語初級Ⅰ』に対する学習者の満足度は比較的に高いものと言えよう。ただ、「とても満足」という項目を選択した学習者が1名もいなかったことと「少し不満」が30%を超えていることには注目すべきであろう。特に、学習者が不満に思う点に関しては、日本人学習者にこの教材を使用する時や今後の教材開発に注意を払う必要があると考えられる。

4.2.2 そう思う理由は何か？

学習者が『韓国語初級Ⅰ』を使用する際、どのような点に満足し、どのような点に不満を持っているかを、回答をもとに《表3》にまとめた。

¹¹ 学校別には、新潟大学が「満足」—65.9%、「少し不満」—31.8%、「不満」—2.4%で、新潟国際情報大学が「満足」—60%、「少し不満」—40%だった。満足度面では新潟大学がやや高かった。

¹² 金・丁(2006)参照。これは調査当時、調査対象者が使用していた教材10種に対する満足度であり、韓国出版の教材3種、日本出版の教材7種に対する満足度である。

《表3》 満足や不満足の原因

| 合計 110 名 | 理 由 |
|-----------------------|--|
| 満足 (64.6%, 71 名) | ①内容構成面 (42 名): 構成 (33 名), 興味深い内容 (1 名), 付録 (8 名) ②視覚的な面 (27 名): 挿絵 (12 名), 見やすい (9 名), カラー (5 名), 写真 (1 名) ③説明言語 (4 名) ④その他 (3 名): 教材の大きさ (1 名), 余白 (2 名) |
| 少し不満 (33.6%, 37 名) | ①視覚的な面 (16 名): 挿絵 (15 名), 写真 (1 名) ②説明言語 (13 名) ③内容構成面 (7 名): 構成 (6 名), 付録 (1 名) ④その他 (7 名): 教材の大きさ (6 名), 紙の質 (1 名) |
| 不満 (1.8%, 2 名) | ①説明言語 (2 名) ②視覚的な面 (1 名): 挿絵 (1 名) |

《表3》によると、満足の理由と不満足の理由は、内容構成面、視覚的な面、説明言語¹³に大きく分けられ、満足の理由としては教材の内容構成面 (42 名) と視覚的な面 (27 名) を、不満足の理由としては教材の視覚的な面 (16 名) と説明言語 (13 名) を主に挙げている。では、学習者の意見を詳しく見てみよう。似ている内容の意見が多かったので代表的なものをいくつか紹介し、() に授業を受けた回数を示した。

4.2.2.1 ‘満足’の理由

- 構成がよくて見やすく、聞く、書く、読む、すべてがバランスよくあって勉強しやすい (30 回)
- 発音部分から詳しく書かれていてわかりやすい、また、各单元ごとに単語が多く入っているので語彙を増やすのに役立つ、CDがついているのも自主学習をするうえでよかった (55 回)
- 文法などがわかりやすい順で載っている (72 回)
- やりがいがある (30 回)
- 基本的な表現でかつ日常生活でよく使えそうな表現が多いから (55 回)
- ピリー氏がナオコ氏とワンヨン氏を狙っているところ。よくまとまっていると思う (72 回)
- 応用ができる、ストーリーが良い (55 回)

まず、‘満足 (64.6%)’の理由は、話す・聞く・読む・書くの4技能を均等に学習できる点、語彙や文法の提示法、日常で使える表現が多く内容がおもしろい等の内容構成に関する意見が最も多かった。

- 絵が入っていてイメージとしてもとらえられる (30 回)
- 写真も沢山載っているから語学だけでなく、韓国の文化や生活が理解しやすい、カラーだし、あまりごちゃごちゃと文が書かれていないからわかりやすくいい (72 回)
- 単語がたくさん覚えられるし、日本語が書いていないので韓国語が身につく！感じがするからです (40 回)
- 日本語が書いていないので最初はとまどったけど、その方が逆に韓国語が頭に入ってくるんだな

¹³ 本稿では、教材で指示および文法説明などに使用される言語をすべて‘説明言語’と呼ぶ。

と思いました。日常会話がが多いので、頭に入りやすい (30 回)

また、教材の挿絵や写真など、視覚的な資料が豊富で韓国語学習に効果的である点¹⁴と韓国文化も理解できるという点を挙げており、説明言語が韓国語なので韓国語学習に効果的であるということも長所として挙げている。その他に次のような意見もあった。

○大きくて見やすい (40 回)

○スペースがある程度あいているので、メモや書き込みがしやすく、自分の教科書が作ってゆける気がする為 (55 回)

4.2.2.2 '不満足' の理由

一方、'少し不満 (33.6%)' と回答した理由には、挿絵などの視覚的な面に関する意見が最も多かった。

○教科書の中の絵がどういう状況を表しているかがわかりにくい (30 回)

○絵が気持ち悪い、わかりにくい絵 (40 回)

○絵がわかりづらい、犬だかアザラシだかよくわからないキャラクターが猫だったのは驚いた (72 回)

○写真で日本のものと違う点があり、わかりにくい (郵便局、市役所、銀行、薬局など) (30 回)

日本人学習者の好みの問題でもあるが¹⁵、教育的な目的をもって提示している視覚的な資料が何を表しているかが不明瞭なものならば、その役割を十分に果たしていないと言える。また、韓国と日本における建物などのイメージが異なることから、教科書の写真などを用いた練習に困難を感じている声もあった。

次に指摘の多かったことは説明言語に関しての意見である。

○すべてが韓国語、初心者には難しい (40 回)

○すべて韓国語で書かれているので予習復習が大変であるという点 (30 回)

○教科書をもって先生が教えてくれる分には勉強しやすいが、自分一人で勉強する時は少し使いづら
いから (55 回)

指示語まで韓国語なので初級レベルの学習者が困難を感じていることがわかる。教師と一緒に学習できる授業時間は制限されており、学習のほとんどを学習者の自習に頼るしかない学習環境を考慮すると、大きな問題だと言えよう。

'不満足 (1.8%)' と回答した場合も、やはり説明言語が韓国語である点と絵などがわかりにくい、好みに合わないなどの指摘があった。また、内容構成面に関する意見もあった。

○まだ習っていない語法が当たり前のように出ている (30 回)

○説明が少ないから (40 回)

¹⁴ 羽鳥 (1994) は言語教育において絵などを利用すると内容や単語などへの理解によいと指摘しており、金・丁 (2006) も、教材の視覚的な面が学習意欲や効果を高める効果があるので、教材開発時には特に配慮すべき点としてあげている。

¹⁵ 日本人学習者はかわいい漫画のような絵を好む。金・丁 (2006) 参照。

- 例文をもっとのせてほしい、朝鮮語独特の単語（地名など）の説明がなくわかりにくい（40回）
- 練習問題が少ない（30回）
- 文法の説明が、その部分のページに書かれていないのが、教科書の後ろで見た時に不便です（40回）
- 付属のCDに単語の発音も入れてほしい（30回）
- 漢字由来の言葉に漢字がついていないこと（30回）

まだ学習していないものが出ているという最初の意見は、『韓国語初級Ⅰ』がコミュニケーション中心の教材だからであろうが、韓国語学習において大部分を教師の説明に頼るしかない学習環境を考慮すると、文法説明や例文の提示法、CDの内容構成などにより細かい配慮を望んでいることがわかる。また、漢字語の重要性を意味する最後の意見からは、学習者自身も学習者の母語を考慮した教材を望んでいることがわかる。その他に次のような意見もあった。

- 教科書が大きくて持ってくるのが大変だと思う（30回）
- 大きくてかばんからはみ出る（40回）
- 紙の質が強すぎて書き込みにくい（消すと跡が残りやすい）（30回）

教材の内容に関する意見ではないが、使用する学習者には大変重要な問題と言える。

以上で、学習者が『韓国語初級Ⅰ』をどのように思っているかを見てきた。学習者は『韓国語初級Ⅰ』が学習しやすく楽しく構成されており、韓国の文化の特徴もよく反映している教材であると肯定的に評価している反面、視覚的な資料がより教育的な価値を持つことや、学習者の特徴を考慮してほしいこと、そして外国で学習するという学習環境を考慮してより使いやすく教材を構成してほしいと思っていることがわかった。

5 終わりに

本稿では、韓国出版の教材を日本で使用する時にどのような点に注意すべきかを学習者の特性に焦点を当てて提示し、韓国の慶熙大学の『韓国語初級Ⅰ』を使った授業の実例と、教材に対する学習者の考えを紹介した。

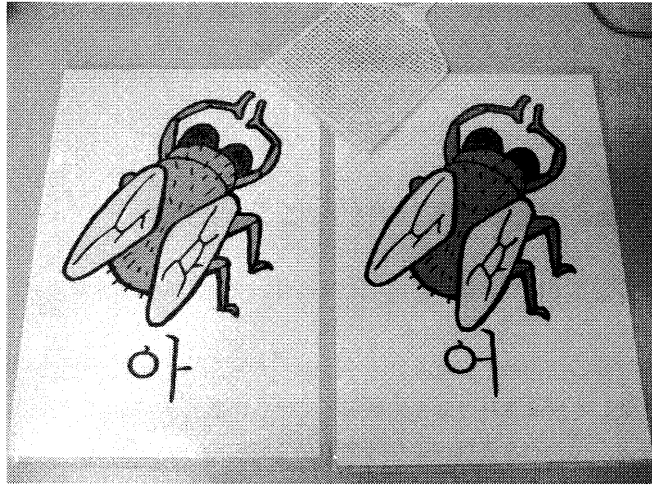
新潟大学と国際情報大学では、コミュニケーション中心の内容構成で楽しく効果的に学習できるように、レベル別に連携して開発されているという点から、韓国の慶熙大学の『韓国語初級Ⅰ』を使用している。しかし、韓国国内での使用を前提に製作された汎用教材であるため、日本人学習者の特性を考慮した漢字語教育や文法の指導法、また発音教育に関しては配慮が足りず、これらは韓国出版の教材を使用する際の問題点として挙げられた。また、本稿では、それらの問題点を補うとともに、学習者や学習環境を考慮して効果的な授業のために本教材をどのように活用しているか授業の実例も紹介した。活発な学習活動のためにグループ活動を活性化し、ゲーム形式を取り入れ、学習者が楽しく少しでも達成感を感じられるように工夫したものだ。それは無論、教材の良さを十分に活かすためのものである。しかし、これらの活動は相当な時間を要する。レベルが上がるにつれて教材の学習する分量や難易度は高くなるのに対し、大学の授業時間数は減っている状況なので、非常に困難な点が多い。

一方、学習者の『韓国語初級Ⅰ』への満足度は64.6%でかなり高いものだった。4技能を均等に学習

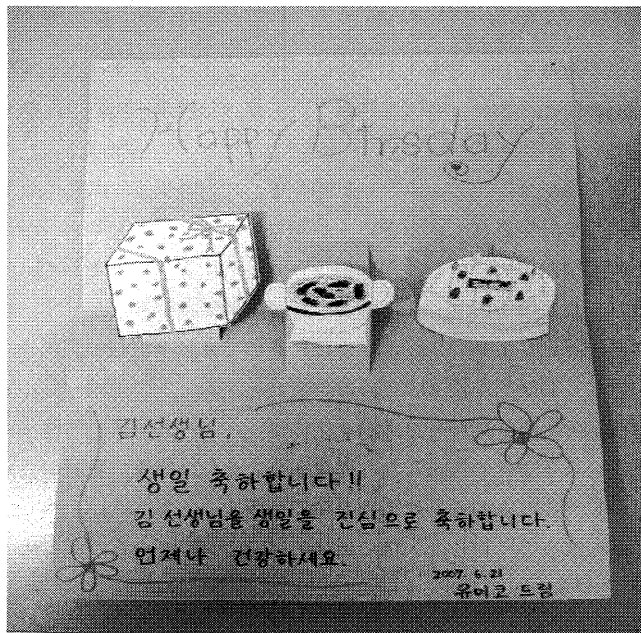
できる点、語彙や文法の提示法、日常で使える表現が多く内容がおもしろい等の内容構成面に満足している意見が多かった。しかし、視覚的な資料が十分に役割をはたしていない点や説明言語がすべて韓国語である点、日本人学習者の母語を考慮していない点、説明や例文、練習問題が少ない点など、学習するうえで学習者が困難を感じていることも多かった。

韓国でも最近では学習者の母語別教材の開発に力を入れているようだが、教材開発の際は、対照言語学や言語教育学の研究成果を十分に反映するとともに、日本人学習者の特性や好みを十分に考慮したよい教材が開発されることを願う。

※添付資料1 「-아요/어요」の練習に用いる‘ハエたたきゲーム’の教具



※添付資料2 学習者が作った誕生日カード



参考文献

- 李奉賢 (1995) 「韓国語教育法について—日本人にはどのように教えたらよいか」『東海大学教育研究所研究資料集』第3号 pp. 97-103, 東海大学教育研究所.
- 任栄哲 (2004) 「外から見た日本語—韓国語と比較して—」『日本アジア研究』創刊号 pp. 3-8, 埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要.
- 月上淵寿 (2007) 「最近の教育に関わる動機づけ理論, 特に達成目標と自己制御学習研究から」
Revue japonaise de didactique du francais, Vol. 2, n. 1, pp. 172-179, 日本フランス語教育学会.
- 菅野裕臣 (1991) 「日本人のための韓国語教材開発と教授法」『教育ハングル』4集 pp. 143-163, ハングル学会 (韓国語).
- 金世朗・丁年姬 (2006) 「日本の大学における韓国語教材開発のための基礎調査—教材の満足度と要求分析を中心に—」『朝鮮語教育—理論と実践—』第1号 pp. 96-149, 朝鮮語教育研究会.
- 財団法人国際文化フォーラム (2005) 『日本の学校における韓国朝鮮語教育—大学等と高等学校の現状と課題—』.
- 野間秀樹 (1996) 「望ましき朝鮮語教材とは?—日本語話者の場合」『語学研究所論集』第1号 pp. 51-81, 東京外国語大学語学研究所.
- 野間秀樹 (2003) 「日本の大学の大学院における韓国語教育」『韓国語教育』第14巻2号 pp. 83-106, 国際韓国語教育学会 (韓国語).
- 長谷川由紀子・李秀旻 (2002) 「韓日韓国語教材の文法シラバスの比較分析—日本の学習者を指導する観点から—」『韓国語教育』第13巻2号 pp. 247-278, 国際韓国語教育学会 (韓国語).
- 羽鳥博愛 (1994) 『英語教育の心理学』大修館書店.
- 朴修禧 (2007) 「新潟県内の韓国語教育現況と学習者の学習傾向」『日本人韓国語学習者のための韓国語教育』慶熙大学・新潟国際情報大学韓日国際交流シンポジウム発表資料 pp. 13-28, 慶熙大学国際教育院 (韓国語).

〈付記〉

本稿は、2007年11月2日、韓国の慶熙大学で開催された日韓国際交流シンポジウム「日本人韓国語学習者のための韓国語教育」で口頭発表したものを、さらに加筆・修正したものである。